多様な利用者のニーズに配慮したユニバーサルデザインのトイレづくりハンドブック
～ 変わります　とうきょうのトイレ　ひとりひとりのために ～　【 概要版 】

ハンドブックは、福祉保健局ホームページでご覧いただけます。　資料２－１
https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/kiban/machizukuri/toilet_handbook.html

ハンドブックについて

○　高齢者、障害者、乳幼児連れ、性的マイノリティなど 多様なニーズを持つ全ての人が、ストレスなく利用できるトイレ環境を実現するため、トイレ利用の困りごとを解消する事例を紹介し、様々な施設での自発的な取組みを促すこと を目的に作成しました。

○　施設や利用者の状況に応じて、ハード・ソフト両面からトイレづくりに取り組んでいただくため、多機能トイレから一般トイレに設備を分散した事例、異性介助等に配慮して男女共用トイレや介助用ベッドを設置した事例、利用者にわかりやすい表示や情報提供を行う事例 などを盛り込んでいます。

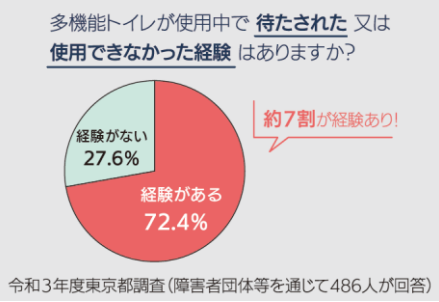
ハンドブックの構成

STEP１　現状と課題から考えるこれからのトイレづくり（P2～）

○　これまで、多様な特性を持つ人が利用できるトイレとして、様々な設備や機能が集約された、「多機能トイレ」が多く設置されてきました。

- ➢「利用が集中する」、「利用しづらいと感じる人がいる」という課題
- ➢ 介助用ベッドの利用希望、異性介助やトランスジェンダー等で男女別のトイレが使いにくい人など、これまであまり表面に出てこなかったニーズ

○　多様な利用者のニーズを理解し、トイレ空間全体でユニバーサルデザイン※ を進めることが求められています。



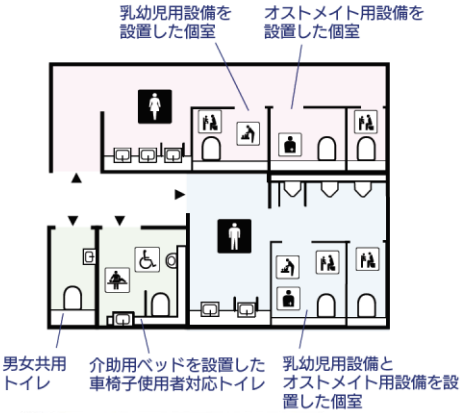
※年齢、性別、国籍、個人の能力にかかわらず、はじめからできるだけ多くの人が利用可能なように都市や生活環境をデザインすること。

STEP２　施設や利用者の状況に応じてトイレの設備等を分散する（P6～）

１.設備を分散して設置する工夫

【事例】一般トイレに乳幼児用、オストメイト用の設備を分散

- ●　トイレスペース内で、一般トイレへ設備を分散することで、車椅子使用者とその他の設備を必要とする人の重なりを防ぐことができます。



【事例】車椅子使用者対応トイレに介助用ベッドを設置

- ●　おむつ交換台が使えない年齢の子供から大人まで、おむつ交換や着替え、自己導尿等に幅広く対応でき、荷物を置くこともできます。

【事例】男女共用トイレを設置

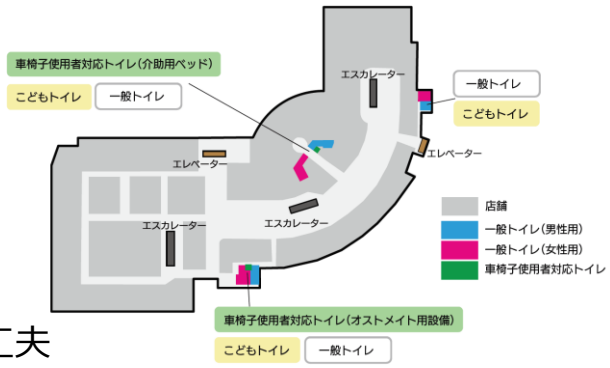
- ●　男女共用のスペースに少し広めのトイレがあれば、知的・発達障害者、認知症高齢者等で異性による介助・同伴が必要な人やトランスジェンダー※等で、男女別のトイレが使いにくい人なども利用しやすくなります。

※性的マイノリティのうち、出生時の戸籍や出生届の性別（出生時に割り当てられた性別）と性自認（自分の性別についての認識）が異なる人

2.施設全体で設備等を分散させる工夫

【事例】フロア内や複数階で設備等を分散

- 施設内にトイレスペースを複数設けてある場合は、利用者の状況やスペース等に応じて、設備や機能を適切に分散して配置することが有効です。



3.利用者の意見を取り入れて、より使いやすくする工夫

【事例】新設や改修の際に利用者の意見を取り入れる

- トイレの新設や改修の際は、設計段階から障害のある当事者等と意見交換の場を設けることが重要です。
- 多様な利用者からその施設のトイレのニーズを聴くことで、施設の用途や規模に応じた対応を検討しやすくなります。

STEP３　トイレ利用における様々な場面を想定した工夫を行う（P24～）

1.より使いやすく、わかりやすくする工夫

【事例】出入口等にピクトグラムで表示

- JIS規格で定められた各設備等のピクトグラムと名称に統一

【事例】空いている個室をわかりやすくする

- 鍵の色で空き状況がわかる

【事例】ボタンの配置等を統一

- 一般トイレも含め、洗浄ボタン等を JIS規格に沿って配置

2.より快適に使える工夫

【事例】音や光の刺激をコントロール

- 感覚過敏の人に配慮した調光機能

3.緊急時にも安心して使える工夫

【事例】災害時に支障なく利用できるようにする

- 学校での多様な避難者の利用を想定したトイレ整備

4.トイレを選びやすくするためのわかりやすい情報提供

【事例】ウェブサイトでトイレの設備等の情報を提供

- マップや写真等で必要とするトイレを探しやすくする

5.真に必要な人が使えるようにするための案内の工夫

【事例】利用者に適正な利用を呼びかける

（例）長時間の利用を控える
介助用ベッドを畳む
便座のふたを閉める

おわりに

都は、今後、利用者がニーズに合うトイレを トイレスペース全体の中から選択できるよう、「選びましょう　自分にあったトイレ　みんなのために」という呼びかけを広く行うことにより、全ての人が安心してトイレを利用できる社会を目指していきます。